

労働体験学習で学ぶ

大江山中の生徒・教師・父母

高橋 武昌

1、全学校が研究指定校化される中で

新潟県の学校では今年度から、県教委主導の「いきいきスクール」(『新潟県第六次総合教育計画』の一環)と称する取り組みが始まっています。「特色ある学校づくり」がテーマですから、労働体験重視の学校もこれから増えてくることでしょう。

さて、新潟市の大江山中学校では、五年前から労働体験学習を生徒に課しています。

夏休みの五日間、地域に出かけて労働にたずさわり、その体験をレポートし、発表し合います。農家、ガソリンスタンド、保育園、老人保健施設、寺院、駅など出かけていくところは様々ですが、PTAも地域の受け入れ先の紹介をするな

どの手伝いをしています。

2、女生徒が学んだ「人間の生き方」

中三の女生徒四人は、地域の老人保健施設「陽光園」にきました。

「二日目のレクリエーションで、折り紙を折っていたおばあちゃんと知り合いになりました。(略)……おばあちゃんの部屋にあそびに行き、くす玉を見せてもらったり、戦争の時の話や子どもが生まれた時の話などいろいろ聞いてきました。(略)……わかれるときおばあちゃんは、『よい娘さんになってね。それと親孝行してね。ものを買ってあげることが本当の親孝行じゃなくて、心配かけず、いっしょに住むことが本当の親孝行なんよ』

とっていました。感動しました。このおばあちゃんをつれて帰りたいくなりました。本当におばあちゃんありがとう」レポートの一部ですが、私たちも、PTAの全役員会議(約五〇名参加)で生徒たちのレポートとビデオに触れて胸にせまるものを感じ、この生徒たちは「本

当の人間の幸せ」について体験を通して学んでいるのだなあと思いました。

高福祉国家のデンマークは、過去にすばらしい老人ホームをつくり、老人の生きがいを実現しました。しかし今日では、ノーマリゼーションといって自宅介護の方向をとり、訪問医、訪問看護婦、ヘルパーなど、医療介護態勢を整えていると聞きます。老人には、家庭で、深いきずなの人間関係と行政の援助によって、幸せをふくらませてほしいという事でしよう。

生徒たちの学んだことも、「人間の幸せは物ではなくて、家庭で、共に生き続けること」であったと思います。それができる社会や地域であってほしいわけです。

大江山中学校の労働体験学習は、親・教師も加わって学び合うことのできる大切な学習です。「いきいきスクール」は、全県下でおしすすめられる一方的な研究ですが、地域に根ざした教育研究がいま求められているのです。

(新潟・大江山中学校PTA幹事長)